

# 英虞湾漁場環境基礎調査－II

## 英虞湾汚染対策調査

藤原正嗣・畠 直亜・西村昭史

### 目的

英虞湾は真珠養殖漁場として産業上重要な海域である。英虞湾を漁場として永続的に利用していくために、水質および底質調査を実施すると共に環境の現状を記録し、長期的な汚染監視を行う。

### 方法

夏季全域調査として、平成18年8月1日に英虞湾の20測点（図1）で水質調査（水温、塩分、酸素量、透明度、COD、クロロフィルa量）を、平成18年8月3日に同測点で底質調査（泥中温度、pH、酸化還元電位、水分、COD、AVS、TC、TN、OC）を実施し、冬季全域調査として平成18年12月7日に同測点で水質調査（夏季全域調査と同じ）を実施した。また、底質及び底生生物の季節変動調査として、平成18年4月17日、7月24日、10月2日、平成19年1月18日にSt.A（立神）とSt.B（タコノボリ）（図1）で水質調査（水温、塩分、酸素量）を、平成18年4月18日、7月25日、10月3日、平成19年1月18日に同測点で底質（AVS、TC、TN、OC）と底生生物調査（個体数、種数、湿重量、多様度指数（H'））を実施した。底生生物調査では、1回の採泥面積が0.04m<sup>2</sup>の採泥を1地点につき3回行い（合計0.12m<sup>2</sup>）、目合い1mmの篩上のマクロベントスを試料とした。

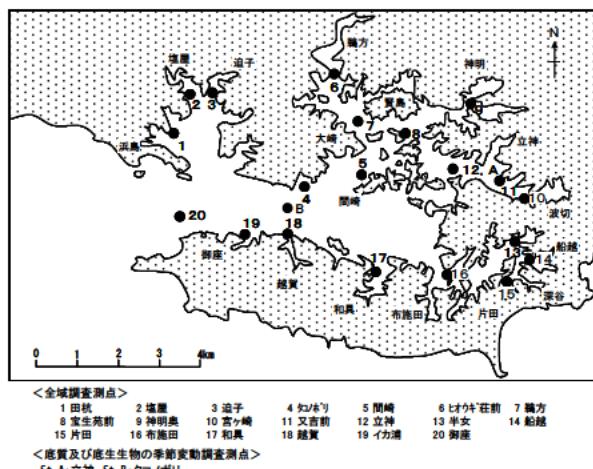


図1. 英虞湾測点図

### 結果および考察

夏季の水質調査結果を表1-1, 1-2に示した。水温は0.5m層で26.0～28.9°C、B-1m層（底上1m層）で17.7～27.6°Cであった。塩分は0.5m層で26.4～29.4、B-1m層で30.7～33.9であった。酸素量は0.5m層で6.7～8.2mg/L、B-1m層で0.7～8.7mg/Lであり、St.1～St.3, St.5, St.7, St.8, St.9, St.12, St.16, St.17のB-1m層で3.0mg/L以下の貧酸素状態であった。透明度は4.0～7.5mで例年と比べてやや低かった。CODは0.5m層で0.70～1.23mgO<sub>2</sub>/L（平均0.98mgO<sub>2</sub>/L）、B-1m層で0.35～1.38mgO<sub>2</sub>/L（平均0.86mgO<sub>2</sub>/L）であった。クロロフィルa量は0.63～21.41μg/Lであった。

冬季の水質調査結果を表2-1, 2-2に示した。水温は0.5m層では13.2～16.2°Cであり、B-1m層では13.2～15.6°Cであった。水温は湾口付近で高く、湾奥部で低い傾向がみられた。塩分は0.5m層では32.2～34.2であり、B-1m層では32.2～33.9であった。酸素量は7.3～8.6mg/Lであった。透明度は4.1～10.5mで例年と比べてやや低かった。また、CODは0.5m層で0.44～1.13mgO<sub>2</sub>/L（平均0.76mgO<sub>2</sub>/L）、B-1m層で0.42～0.95mgO<sub>2</sub>/L（平均0.67mgO<sub>2</sub>/L）であった。クロロフィルa量は0.89～22.0μg/Lであった。

底質調査結果を表3に示した。水産用水基準（1995年、日本水産資源保護協会）から本年度の調査結果を解析したところ、St.18, St.20は「正常泥」AVS(TS)≤0.2(mg/g·dry)かつCOD≤20(mg/g·dry)、St.4, St.14は「初期汚染泥」AVS≤1.0かつCOD≤30で正常泥にあてはまらないもの、他の16測点は全て「汚染泥」AVS>1またはCOD>30、と評価された。

St.A（立神）とSt.B（タコノボリ）における底質および底生生物の季節変動調査の結果を図2に示した。種類数（図2-a）は7月、10月の調査ではSt.AよりもSt.Bで多かったが、4月、1月の調査ではSt.Aが若干多かった。St.Aでは10月が最も少なく0.12m<sup>2</sup>あたり4種類で、その後増加していく傾向が見られた。St.Bでは10月が0.12m<sup>2</sup>あたり35種類で最も多く、7月、10月および1月の調査でもほぼ同程度の値を示した。個体数（図2-b）は、種類数と同様、4月、7月、10月の調査ではSt.AよりもSt.Bで多かったが、1月の調査ではSt.Aで多かった。個体数の季節変化を見ると、St.AとSt.Bでは異なる傾向を示した。St.Aでは、10月の調査で最低値の188.3個体/m<sup>2</sup>





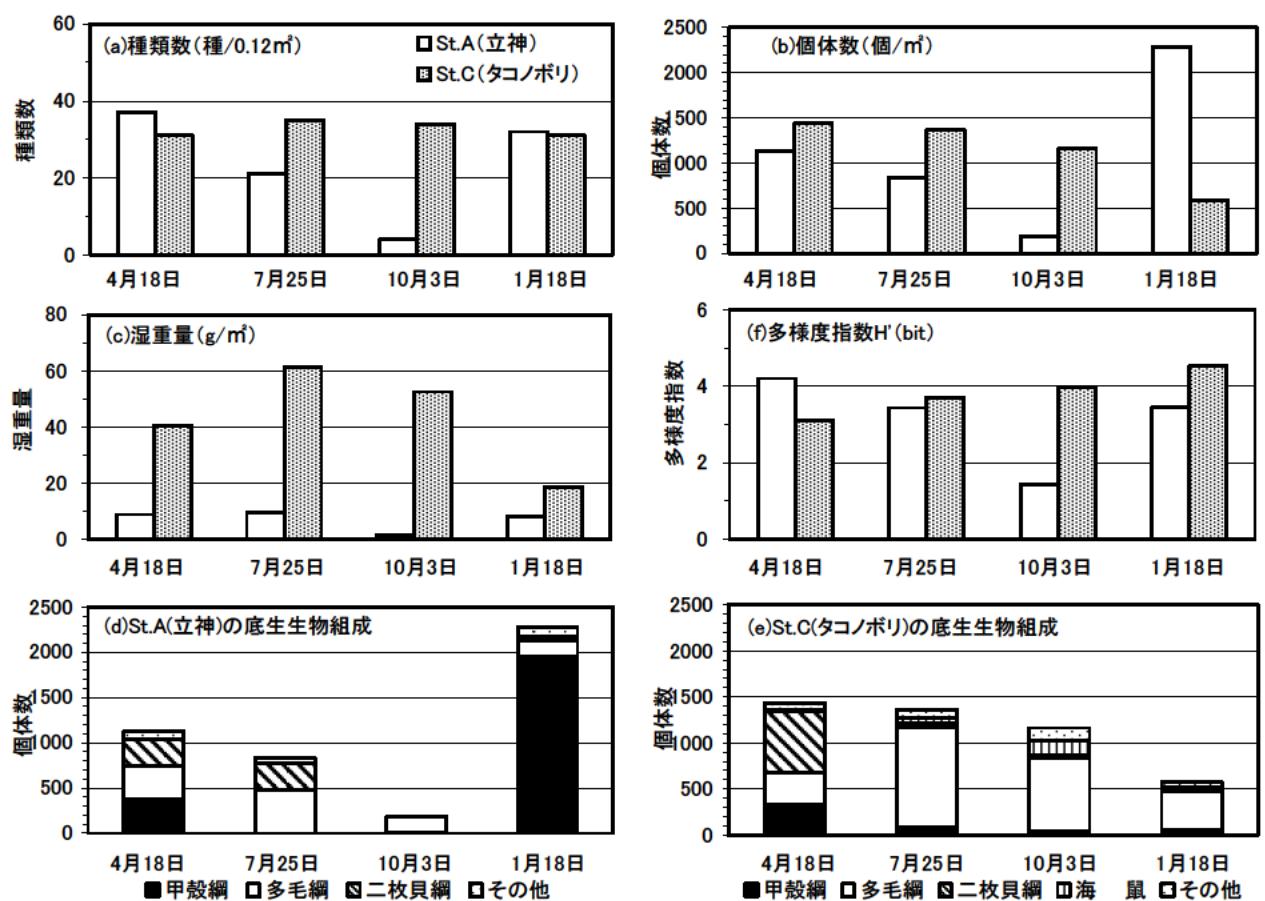


図2. St. A (立神) と St. B (タコノボリ) における底生生物の種類数(a), 個体数(b), 湿重量(c), 多様度指数H' (f) およびSt. Aの底生生物組成(d), St. Cの底生生物組成(e)

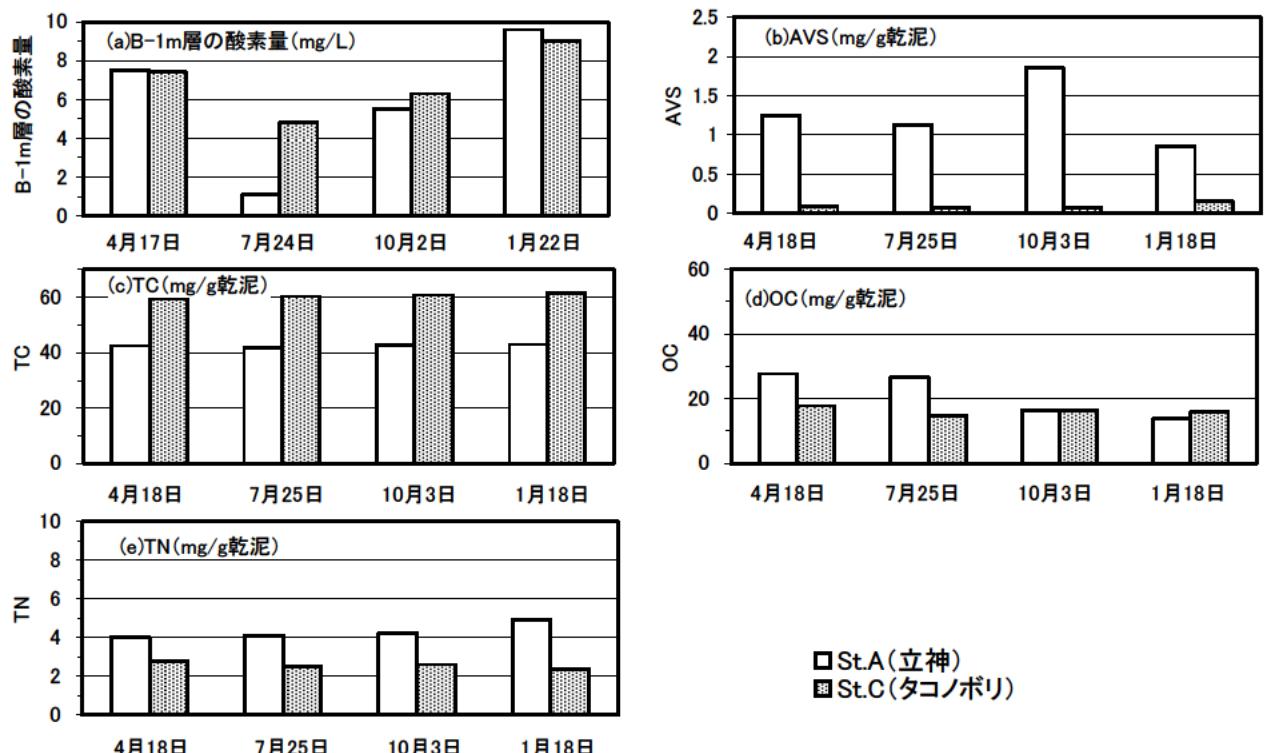


図3. St. A (立神) と St. B (タコノボリ) における B-1m 層の酸素量(a), AVS (b), TC (c), OC (d), TN (e) の変化